

4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の表3-4.1「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績（年間の分析試料数）」、「分析（主）担当者以外の分析結果の確認」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

○分析条件等

- ・適用している分析方法や分析機器等によっては、記入が不要な部分、記入が難しい部分等があると考えられますので、そのような場合には記入する必要はありません。
- ・複数回測定（併行測定）では、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、3回分を記入する場合があります。

○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があり、内標準法ではその比（例えばピーク面積比）もあり、またそれらの比例値もあり、このように各種のものがあります。記入にあたっては、いずれの値も可能です。

ただし、指示値の記入欄には、検量線の最高濃度、試料、空試験の3つ（3か所）あり、記入にあたっては3か所とも同じ種類（単位）のものとしてください。

○分析を実施しなかった項目の結果

複数の分析項目を含んでいる分析結果報告書（分析結果報告書 [5] と [6] の農薬等、[7] ～ [9] のダイオキシン類）の作成にあたって、分析を実施しなかった項目があった場合には、その項目の結果は「9999」と入力してください。なにも入力しないでエラーメッセージ（例えば、「分析結果・・・の検出下限値以上または検出下限値未満での検出下限値のいずれかは必須項目です。該当する値を入力して下さい。」）が表示される場合には、確定できませんので、ご注意ください。

○分析結果（数値の丸め方）

分析結果については、有効数字3桁（ダイオキシン類は2桁）としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

4-1 分析結果報告書 [1]

分析結果報告書[1]の入力方法の詳細を記します

表4-1 排水試料（COD）（分析結果報告書 [1]）

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
・分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。

の値)	検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値（滴定値、吸光度、ピーク高さ等）については、3回分を記入する。）	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<測定条件等> 試料量 銀の使用 種類 添加量 水浴中の温度 過マンガン酸カリウム溶液のファクター 過マンガン酸カリウム溶液の滴定量 試料 空試験 標準原液 区分	数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL又はg。 数値（半角）入力。単位：℃ 数値（半角）入力。 数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、測定条件に記載されている用語を用いて記入する。 例（COD） $\text{分析結果 (mg/L)} = (\text{試料の滴定値mL} - \text{空試験の滴定値mL}) \times \text{過マンガン酸カリウム溶液のファクター} \times 1000 \div \text{試料量mL} \times 0.2$

4-2 分析結果報告書 [2]

分析結果報告書[2]の入力方法の詳細を記します。

表4-2 排水試料（BOD）（分析結果報告書 [2]）

分析結果	<p>数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 <u>単位：mg/L</u>。試料1Lあたりのmgとして記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。</p>
・分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	<p>検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて<u>分析結果を有効数字3桁</u>で記入。 検出下限値未満では、<u>検出下限値を有効数字1桁</u>で記入。</p>
	<p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p>
<p>3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値（滴定値、吸光度、ピーク高さ等）については、3回分を記入する。）</p>	
開始月日 終了月日	<p>コンボボックスより選択。 開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。</p>
分析方法 使用した水	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p><希釈試料の調製に用いた希釈水> 植種の有無（希釈水の種類等） 植種希釈水を用いた場合 植種液の種類 植種液のBOD 希釈水への植種液の添加量</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mg/L。</p>
<p><試料の前処理> 前処理</p>	<p>コンボボックスより選択。（ ）には、具体的に記入。</p>
<p><段階的な希釈試料の調製> 調製した希釈試料の段階の数 希釈の方法 消化抑制</p>	<p>数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）には、具体的に記入。</p>

<培養の方法> 培養瓶の容量 恒温の方法	数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<溶存酸素の測定> 測定方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に
<溶存酸素の測定：滴定法> P 試料量 滴定量	数値（半角）入力。Pは希釈試料中の試料の占める割合（試料/希釈試料）を示す（P値が大きい順に記入する）。例えば、3段階希釈では、1段階：P=0.04（25倍希釈）、2段階：P=0.02（50倍希釈）、3段階：P=0.01（100倍希釈）の順のように記入する。 数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：mL。よう素滴定法では25mmol/Lチオ硫酸ナトリウム溶液の滴定量（mL）、ミラー変法では硫酸アンモニウム鉄（Ⅱ）溶液の滴定量（mL）を記入する。
<測定記録> P 溶存酸素 溶存酸素消費率 BODの値	<溶存酸素の測定：滴定法>と同じ。 数値（半角）入力。単位：mg/L。 数値（半角）入力。単位：%。溶存酸素の消費率（%）は $(D1-D2)/D1 \times 100$ として算出する。 数値（半角）入力。単位：mg/L。BODの算出に用いた希釈試料（希釈段階）に該当する欄に値を記入し、他は空欄とする。
<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-3 分析結果報告書 [3]

分析結果報告書[3]の入力方法の詳細を記します。

表4-3 排水試料（ふっ素）（分析結果報告書 [3]）

分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。
------	------------------------

	<p>単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。</p> <p>「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。</p>
・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	<p>検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。</p> <p>検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。</p>
(注) 検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	<p>分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。</p>
<p>3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)</p>	
開始月日	コンボボックスより選択。
終了月日	開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<蒸留操作> 試料量 濃縮 蒸留 使用した酸 受器(全量フラスコ) 受器への添加 留出液の中和 留出液の定容量	数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：mL。
<吸光度法> 蒸留操作 留出液(又は試料)の分取量 リタン-アサリコンプレックス溶液 測定波長	コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：nm。
<イオン電極法> 蒸留操作	コンボボックスより選択。
<イオンクロマトグラフ法>	

蒸留操作	コンボボックスより選択。
留出液(又は試料)希釈倍率	数値(半角)入力。
溶離液の種類	はコンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
分離カラムの種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
イオンクロマトグラフ	
メーカー	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
型式	コンボボックスより選択。
区分	コンボボックスより選択。
注入量	数値(半角)入力。単位: μL 。
<検量線の作成等>	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。
内標準法 内標準物質の種類	具体的に記入。
検量線の作成 作成点数	数値(半角)入力。整数。
作成範囲 最小濃度	数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の量(μg 、吸光度法)又は濃度(mg/L 、イオン電極法、イオンクロマトグラフ法)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大濃度	数値(半角)入力。単位: 最小濃度と同じ。
最高濃度の指示値	数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料 指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
空試験 指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
検出下限	数値(半角)入力。単位: mg/kg (土壌試料中の濃度)。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料(COD)を参照する。

4-4 分析結果報告書[4]

分析結果報告書[4]の入力方法の詳細を記します。

表4-4 排水試料(TOC)(分析結果報告書[4])

分析結果	数値(半角)入力。測定回数3回の結果を記入。 単位: mg/L 。試料1Lあたりのmgとして記入。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。
------	--

・分析結果(検出下限値以上)(検出下限未満での検出下限の値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注) 検出下限 : 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値(滴定値、吸光度、ピーク高さ等)については、3回分を記入する。)	
開始月日 終了月日	コンボボックスより選択。 開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法 分析方法(原理1) 分析方法(原理2) 使用した水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入。
<測定> TOC計 メーカー 型式 全炭素の測定 試料の希釈倍率 試料(希釈試料)の注入量 無機体炭素の測定 試料の希釈倍率 試料(希釈試料)の注入量 有機体炭素の測定 無機体炭素の除去方法 試料の希釈倍率 試料(希釈試料)の注入量	具体的に記入。 具体的に記入。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位: μL 。 数値(半角)入力。 数値(半角)入力。単位: μL 。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位: mL。
<検量線の作成等(全炭素)> 定量方法 方法 内標準法 内標準物質の種類 検量線の作成 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 最高濃度の指示値	コンボボックスより選択。 具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。単位: (mg/L、「ゼロ(0)」は含めない)。 数値(半角)入力。単位: 最小濃度と同じ。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ

試料 指示値	単位で記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 3回分を記入。
空試験 指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
<検量線の作成等（無機体炭素）>	上記<検量線の作成等（全炭素）>と同じ。
<検量線の作成等（有機体炭素）>	上記<検量線の作成等（全炭素）>と同じ。
<試料の保存状況> 保存状況 保存方法等 保存温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：℃
分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-5 分析結果報告書 [5]

分析結果報告書[5]の入力方法の詳細を記します。

表4-5 水質試料（農薬：ジクロロボス及びフェノブカルブ）
（分析結果報告書 [5]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析結果 分析結果	数値（半角）入力。単位： $\mu\text{g/L}$ 。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。（分析を実施しない項目があった場合には、「検出下限値以上」に「9999」と入力）測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
分析結果（検出下限値以上）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。
（検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。

分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（ピーク面積等）については、測定回数分を記入する。
<抽出> 試料量	数値（半角）入力。単位：mL。
試料からの抽出方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
溶媒抽出 塩化ナトリウム	数値（半角）入力。単位：g。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
溶媒の使用量 1回目	数値（半角）入力。単位：mL。
2回目	数値（半角）入力。単位：mL。
1回当たりの抽出時間	数値（半角）入力。単位：分。
抽出回数	数値（半角）入力。単位：回。
固相抽出 型式1	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
型式2	具体的に記入。
吸引速度	数値（半角）入力。単位：mL/分。
固相の脱水 吸引	コンボボックスより選択。時間は数値（半角）入力。単位：分。
遠心分離	具体的に記入。
その他	具体的に記入。
溶出 溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
量	数値（半角）入力。単位：mL。
溶出液の脱水	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
濃縮方法	
ロータリーエバポレーター	コンボボックスより選択。
KD	コンボボックスより選択。
窒素吹き付け	コンボボックスより選択。
その他	具体的に記入。
定容量（抽出液）	数値（半角）入力。単位：mL。

<クリーンアップ> 抽出液の分取量 クリーンアップ方法 濃縮方法 ロータリーエバポレーター KD 窒素吹き付け その他 カラム溶出液の脱水 定容量（測定用試料液量）	数値（半角）入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。
<GC/MS> GC 型式 MS 型式 装置型式 イオン検出法	すべての項目とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位：μm。
カラム昇温条件	温度（℃）、温度保持（分）、昇温速度（℃/分）、昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
キャリヤーガス条件 種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。 単位：コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。 単位：コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。単位：μL。 数値（半角）入力。単位：℃。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定用質量数	すべての項目とも、数値（半角）入力。 定量に用いた質量数1つを記入。
<標準原液>	

標準原液 区分	コンボボックスより選択。
メーカー名	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
Product No.	具体的に記入。
Lot. No.	具体的に記入。
保証期限	コンボボックスより選択。
開封後の日数 (概数)	数値 (半角) 入力。単位: 日。
保存容器	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
保存場所	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
標準液 調製してから測定までの日数	数値 (半角) 入力。単位: 日。
<検出下限> 検出下限	数値 (半角) 入力。試料中の濃度 ($\mu\text{g/L}$) として記入。
<検量線の作成等> 定量方法 方法	コンボボックスより選択。
シツパイク 使用の有無	コンボボックスより選択。
添加物質	具体的に記入。
添加量	数値 (半角) 入力。測定用試料液への添加量 (ng) で記入。
カゲート 使用の有無	コンボボックスより選択。
添加物質	具体的に記入。
添加量	数値 (半角) 入力。試料への添加量 (ng) で記入。
回収率	数値 (半角) 入力。単位: %。
検量線の作成 作成点数	数値 (半角) 入力。整数。
作成範囲 最小量	数値 (半角) 入力。 GCへの注入量 (ng) を記入。「ゼロ (0)」は含めない。
最大量	最小量と同じ。
最高濃度の指示値	数値 (半角) 入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 測定回数分を記入
空試験の指示値	数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
<参考: 分析用試料の調製> 使用した容器	(水で1000倍希釈して調製する方法) コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
使用した水	
分取した共通試料の量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
定容量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
分析用試料を調製してから分析操作 (抽出操作) までの時間	数値 (半角) 入力。単位: 分。

分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-6 分析結果報告書 [6]

分析結果報告書[6]の入力方法の詳細を記します。

表4-6 水質試料（PFOS及びPFOA）（分析結果報告書 [6]）

測定回数	1～5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからLC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析結果 分析結果	数値（半角）入力。単位：ng/L。 「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。（分析を実施しない項目があった場合には、「検出下限値以上」に「9999」と入力）測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
分析結果（検出下限値以上） （検出下限未満での検出下限の値）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
（注）検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
分析開始月日 分析終了月日	コンボボックスより選択。 分析開始日は分析（前処理操作を含む）を開始した日。 分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料の指示値（ピーク面積等）については、測定回数記入する。

<p><前処理></p> <p>試料量</p> <p>試料からの抽出方法</p> <p>試料のpH調節</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>「1. 行う」を選んだ場合には、pH値を記入。</p>
<p>固相抽出 型式1</p> <p> 型式2</p> <p>吸引速度</p> <p>固相の脱水 吸引</p> <p> 遠心分離</p> <p> その他</p> <p>溶出 溶媒</p> <p> 量</p> <p>溶出液の脱水</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL/分。</p> <p>コンボボックスより選択。時間は数値（半角）入力。単位：分。</p> <p>具体的に記入。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<p>クリーンアップ方法</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>「1. 行う」を選んだ場合には、具体的な方法を記入。</p>
<p>濃縮方法</p> <p>ロータリーエバポレーター</p> <p>KD</p> <p>窒素吹き付け</p> <p>その他</p>	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。</p> <p>具体的に記入。</p>
<p>定容量（測定用試料液）</p>	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p>
<p><LC></p> <p>メーカー</p> <p>型式</p> <p>試料 注入量</p> <p>移動相</p> <p>グラジエント</p>	<p>具体的に記入。</p> <p>具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：μL。</p> <p>具体的に記入。</p> <p>具体的に記入。</p>
<p>カラム 型式</p> <p> 内径</p> <p> 長さ</p> <p>カラム槽 温度</p> <p>流速</p>	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mm。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mm。</p> <p>数値（半角）入力。単位：℃。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL/分。</p>
<p><MS又はMS/MS></p> <p>メーカー</p> <p>型式</p>	<p>具体的に記入。</p> <p>具体的に記入。</p>

イオン化 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
検出 方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
キャピラリー電圧	数値（半角）入力。単位：kV。
コン電圧	数値（半角）入力。単位：V。
コリジョンエネルギー	数値（半角）入力。単位：eV。
測定質量数	すべての項目とも、数値（半角）入力。定量に用いた質量数を記入。
<標準原液> 標準原液 区分 メーカー名 （製造メーカー名） Product No. Lot No. 開封からの日数（概数） 保存容器 保存場所 標準液 調製してから測定までの日数 PFOS 種類 1 種類 2	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 具体的に記入。 具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：日。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：日。 コンボボックスより選択。「直鎖の割合」は数値（半角）入力。単位：%。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<検出下限> 検出下限	数値（半角）入力。試料中の濃度（ng/L）として記入。
<検量線の作成等> 定量方法 方法 シツパイク 使用の有無 添加物質 添加量	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 具体的に記入。 数値（半角）入力。測定用試料液への添加量（ng）で記入。
サゲート 使用の有無 添加物質 添加量 回収率	コンボボックスより選択。 具体的に記入。 数値（半角）入力。試料への添加量（ng）で記入。 数値（半角）入力。単位：%。

検量線の作成 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲 最小量	数値（半角）入力。 LCへの注入する標準液濃度（n g/L）を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最大量	最小量と同じ。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 測定回数分を記入
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
<参考：分析用試料の調製>	（水で1000倍希釈して調製する方法）
使用した容器	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に
使用した水	記入。
分取した共通試料の量	数値（半角）入力。単位：mL。
定容量	数値（半角）入力。単位：mL%。
分析用試料を調製してから分析操作（抽出操作）までの時間	数値（半角）入力。単位：分。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。記入例は、排水試料（COD）を参照する。

4-7 分析結果報告書 [7]

分析結果報告書[7]の入力方法の詳細を記します。この分析結果報告書には、簡易測定法マニュアルによる方法（GC/HRMS法）の結果を記入する。

なお、簡易測定法マニュアルによる方法（GC/QMS法及びGC/ITMS/MS法）については分析結果報告書 [8]、土壌マニュアルによる方法（ソックスレー抽出-GC/HRMS法）については分析結果報告書 [9] に記入する。

表4-7 土壌試料（ダイオキシン類）（分析結果報告書 [7]）

簡易測定法マニュアルによる方法（GC/HRMS法）

測定回数	1~5の整数（半角）入力。分析用試料のはかり取りからGC/MS等の測定までの一連の操作を行った回数（併行測定の回数）を記入。
分析方法	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的な分析方法を記入する。

分析結果 分析結果	<p>数値（半角）入力。単位：pg/g。</p> <p>「定量下限値以上」又は「定量下限未満での定量下限の値」欄のうち該当する一方に記入。（分析を実施しない項目があった場合には、「定量下限値以上」に「9999」と入力）測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。</p>
分析結果（定量下限値以上） （定量下限未満での定量下限の値）	<p>定量下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字2桁で記入。</p> <p>定量下限値未満では、定量下限値を有効数字1桁で記入。</p>
分析条件	2回以上の併行測定を行った場合には、1回目の分析条件を記入する。ただし、試料量等については、測定回数分を記入する。
<抽出：ソックスレー抽出> 試料のはかり取り量	<p>数値（半角）入力。単位：g。測定回数分を記入する。</p> <p>PCDDs及びPCDFs用とDL-PCB用と異なる取り方を行った場合には、「メモ」欄にその概要を記入する。</p>
ソックスレー抽出 方法 溶媒 抽出時間 溶媒量 ろ紙の種類	<p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p> <p>トルエン</p> <p>数値（半角）入力。単位：時間。</p> <p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
抽出液の濃縮	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
濃縮後の定容量（抽出液）	数値（半角）入力。単位：mL。
クレンジング用の試料 （抽出液の分取量）	<p>数値（半角）入力。単位：mL。</p> <p>「PCDDs、PCDFs及びDL-PCB用」として取った場合には上段に記入する。「PCDDs及びPCDFs用」と「DL-PCB用」に別々に取った場合には、下段に、別々に記入する。また、PCDDs及びPCDFs用とDL-PCB用で異なる取り方を行った場合等には、「メモ」欄にその概要を記入する。</p>
クレンジングスピック 添加 添加箇所	<p>コンボボックスより選択。</p> <p>コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。</p>
<抽出：高圧流体抽出> 試料のはかり取り量	<p>数値（半角）入力。単位：g。測定回数分を記入する。</p> <p>PCDDs及びPCDFs用とDL-PCB用と異なる取り方を行った場合には、「メモ」欄にその概要を記入する。</p>

高圧流体抽出 メーカー 型式 抽出容器の容量 溶媒の種類 溶媒の量 温度 加熱時間 圧力 静置時間 抽出サイクル 溶媒置換総量	具体的に記入。 具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mL。 数値（半角）入力。単位：℃。 数値（半角）入力。単位：時間。 数値（半角）入力。単位：p s i。 数値（半角）入力。単位：時間。 数値（半角）入力。単位：回。 数値（半角）入力。単位：%（容器容量あたり）。
抽出液の濃縮	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
濃縮後の定容量（抽出液）	数値（半角）入力。単位：mL。
クリーナップ用の試料 （抽出液の分量）	数値（半角）入力。単位：mL。 「PCDDs、PCDFs及びDL-PCB用」として取った場合には上段に記入する。「PCDDs及びPCDFs用」と「DL-PCB用」に別々に取った場合には、下段に、別々に記入する。また、PCDDs及びPCDFs用とDL-PCB用で異なる取り方を行った場合等には、「メモ」欄にその概要を記入する。
クリーナップスパイク 添加 添加箇所	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
<クリーナップ> A 硫酸処理 シリカゲルクロマト 多層シリカゲルクロマト	すべての項目とも、コンボボックスより選択。
B GC/MS分析用試料液の調製方法	すべての操作とも、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、「C.」に記入。
C その他の処理	すべての操作とも、コンボボックスより選択。「その他」の場合には、具体的に記入。
D 硫黄分除去の処理	すべての操作とも、コンボボックスより選択。「その他」の場合には、具体的に記入。
クリーナップ方法	上記A～Dの記号を用いて記入する。
転用溶媒	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
GC/MS分析用試料液	

PCDDs及びPCDFs用 DL-PCB用 PCDDs・PCDFs・DL- PCBs用	数値（半角）入力。単位： μL 。 GC/MS分析用試料液の量であり、GCへの注入量でないことに注意する。
<GC/MS> 対応物質 PCDDs及びPCDFs DL-PCB	（対応物質ごとにGC/MS 1～5に記入する） チェックボックスにチェック。分析対象とした塩素化物を選択。
GC 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
カラム 型式 内径 長さ 膜厚	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mm。 数値（半角）入力。単位：m。 数値（半角）入力。単位： μm 。
昇温条件	温度（ $^{\circ}\text{C}$ ）、温度保持（分）、昇温速度（ $^{\circ}\text{C}/\text{分}$ ）、昇温回数（回）とも数値（半角）入力。5回以上の昇温を行った場合には、最終の温度と温度保持を記入。
注入 量 注入口温度 注入方式	数値（半角）入力。単位：GCへの注入量（ μL ）を記入。 数値（半角）入力。単位： $^{\circ}\text{C}$ 。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
キャリアーガス条件 流量 圧力	数値（半角）入力。単位：mL/分。 数値（半角）入力。 単位については、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
MS型式 型式	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
測定時の分解能	コンボボックスより選択。
イオン化 方法 電圧 電流 イオン源温度	コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位： $^{\circ}\text{C}$ 。
<検量線の作成> PCDDs及びPCDFs 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 繰り返し数	数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。GCに注入する標準液の濃度（ng/mL）を記入。「ゼロ(0)」は含めず、異性体で異なる場合には最小値を記入。 数値（半角）入力。単位：最小濃度と同じ。異性体で異なる場合には、最大値を記入。 数値（半角）入力。整数。

DL-PCB 作成点数 作成範囲 最小濃度 最大濃度 繰り返し数	PCDDs及びPCDFsと同様に記入。
標準物質(液) PCDDs及びPCDFs 製造メーカー 開封後の月数 DL-PCB 製造メーカー 開封後の月数 保存容器	製造メーカーは、コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。 開封後の月数は、数値(半角)入力。単位:月。 PCDDs及びPCDFsと同様に記入。 コンボボックスより選択。「その他」を選んだ場合には、具体的に記入。
装置安定性 感度変動 保持時間変動	数値(半角)入力。単位:%。 数値(半角)入力。単位:%。
<異性体別のGC/MS分析条件及び分離定量> GC/MS分析条件 分離定量	異性体別に選択又は具体的に記入。 コンボボックスより選択。1~5のうち定量に使用した条件一つを選択する(分析条件GC/MS 1~GC/MS 5のいずれを選ぶ) コンボボックスより選択。分析条件(GCカラム等)から重なっている異性体があるときには「2」を選択する。 「2」を選んだ場合、重なっている異性体がわかっているときには具体的に記入。
<内標準物質の添加量と回収率> クレンジアップスパイク 添加量 クレンジアップスパイク 回収率 シリンジスパイク 添加量	使用した内標準物質に該当する欄に記入。「その他」の内標準物質を使用した場合には、具体的に記入。 数値(半角)入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。 数値(半角)入力。添加した内標準物質の回収率(%)を記入。 数値(半角)入力。添加した内標準物質の量(n g)を記入。
<空試験値及び相対感度係数> 空試験値(操作バラク) 相対感度係数(RRFcs) 相対感度係数(RRFrs)	数値(半角)入力。試料中の濃度(p g/g)に換算した値で記入(分析結果と同じ単位とする)。 <u>空試験値が検出されない場合には記入しない(空欄とする)</u> 。 数値(半角)入力。2つのモーターイオン(質量数)では平均値を記入。 数値(半角)入力。2つのモーターイオン(質量数)では平均値を記入。

<定量下限値> 装置の定量下限 試料の（における）定量下 限	数値（半角）入力。すべて有効数字1桁で記入。 GC/MSで定量できる最小量（p g）を有効数字1桁で記入。 定量できる試料中の最小濃度（n g / g）を有効数字1桁 で記入（分析結果と同じ単位とする）。
<測定質量数>	各塩素化物ごとに2つまでを選択（定量に用いた質量数を選択）。 質量数の表記は、記載しているマニュアル等により異なっているこ ともあり、質量数0.01以下ではそのことを考慮して選択する（近い 質量数を選択する）。「その他」を選んだ場合には、数値（半角） で具体的に記入。

4-8 分析結果報告書 [8]

分析結果報告書[8]の入力方法の詳細を記します。この分析結果報告書には、簡易測定法マニュアルによる方法（GC/QMS法及びGC/ITMS/MS法）の結果を記入する。

なお、簡易測定法マニュアルによる方法（GC/HRMS法）については分析結果報告書[7]、土壤マニュアルによる方法（ソックスレー抽出-GC/HRMS法）については分析結果報告書[9]に記入する。

表4-8 土壤試料（ダイオキシン類）（分析結果報告書 [8]）

簡易測定法マニュアルによる方法（GC/QMS法及びGC/ITMS/MS法）

表4-7 土壤試料（ダイオキシン類）（分析結果報告書 [7]）を参考に記入する。

4-9 分析結果報告書 [9]

分析結果報告書[9]の入力方法の詳細を記します。この分析結果報告書には、土壤マニュアルによる方法（ソックスレー抽出-GC/HRMS法）の結果を記入する。

なお、簡易測定法マニュアルによる方法（GC/HRMS法）については分析結果報告書[7]、簡易測定法マニュアルによる方法（GC/QMS法及びGC/ITMS/MS法）については分析結果報告書[8]に記入する。

表4-9 土壌試料（ダイオキシン類）（分析結果報告書 [9]）

土壌マニュアルによる方法（ソックスレー抽出-GC/HRMS法）

表4-7 土壌試料（ダイオキシン類）（分析結果報告書 [7]）を参考に記入する。

分析結果報告書 [7] と異なる点（概要）を以下に示す。

○分析結果

- ・「定量下限値以上」、「検出下限～定量下限」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入する。
- ・PCDDs及びPCDFsの異性体、DL-PCBsの異性体、TEQの他、下記の結果も含める（記入する）。
PCDDs及びPCDFsの同族体とそれらの総和
DL-PCBsの異性体の和

○抽出方法

ソックスレー抽出とし、高圧流体抽出は含まない。

4-10 アンケート

○ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

ホームページからの分析結果報告書の作成に関するアンケートを記します。分析結果を確定後に回答していただくものです。

アンケートの内容は、**試料ごと（3区分）**になっています。

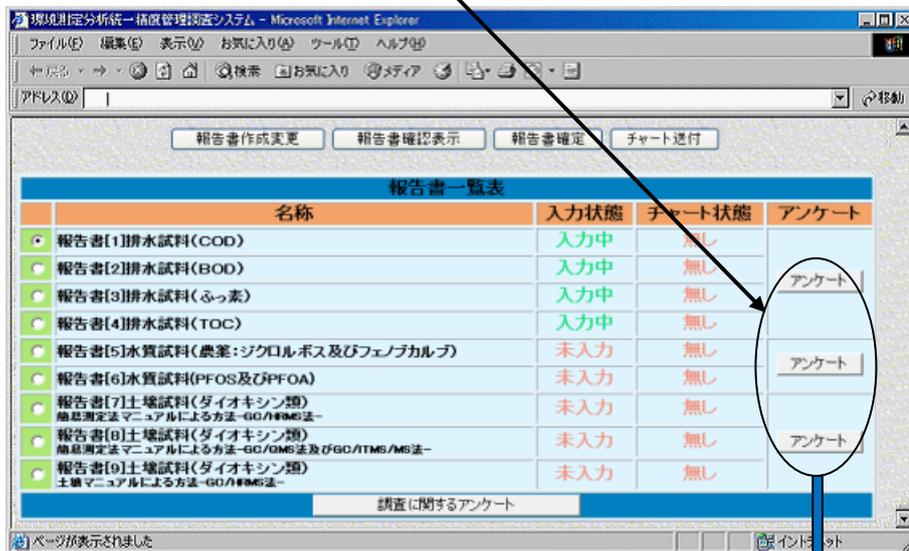


図 4-10.1 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

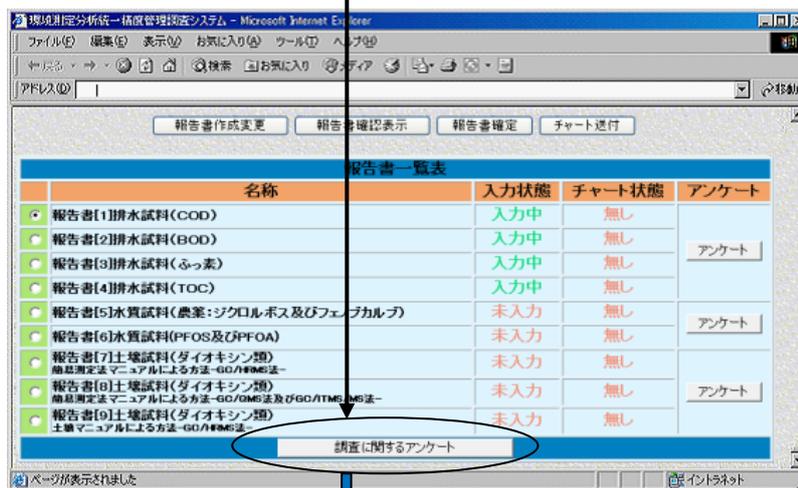
いずれの試料とも、質問はコンボボックスより選択します。「2」を選択した場合には（ ）内には具体的な理由又は内容を記入してください。

分析結果報告書の作成時に感じた点等	1. 良い 2. 改良すべき点、問題点等がある 内容（ ）
-------------------	----------------------------------

○環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート

環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケートを記します。「ホームページからの分析結果報告書の作成に関するアンケート」と同様に、質問はコンボボックスより選択し、() 内には具体的に記入してください。

アンケートの内容は、**各試料 (3 区分) で共通**となっています。したがって、各機関ひとつの回答となります。



アンケート回答者の担当業務の区分 (ひとつを選択)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境測定分析業務の担当者 2. 環境測定分析業務の管理者 3. 環境測定分析委託業務の担当者 4. 環境測定分析委託業務の管理者 5. その他 ()
調査に参加する目的 (複数回答可)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼性の確保、精度の確認等 2. 分析方法・分析技術・分析機器の確認・改善等 3. 外部精度管理として (入札に対応) 4. 外部精度管理として (ISOに対応等) 5. 他機関との比較・情報交換 6. 職員の教育等 7. その他 ()
調査の効果 (ひとつを選択)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精度の確認が出来た 2. 分析技術の再確認、向上が出来た 3. 分析者の意識の向上、レベルアップとなった 4. 問題点の検討、課題の確認が出来た 5. 他の機関の動向を知る、また比較が出来た 6. 顧客の信頼とPR になった (入札資格取得に利用) 7. その他 ()

これからの調査の必要性、あり方 (ひとつを選択)	1. このままの調査方法で継続する 2. その他 ()
その他 (自由記載)	本調査に関する希望する事項があれば記入してください。 ()